

議事録

| | |
|------|---|
| 会議名 | 令和7年度第1回京田辺市総合教育会議 |
| 日時 | 令和7年5月9日（金）午後2時30分開会 |
| 場所 | 京田辺市立中央公民館1階第1研修室 |
| 出席者 | （構成員） 上村市長、山岡教育長、藤原教育長職務代理者、上村教育委員、伊東教育委員、藤井教育委員 （事務局） 森田企画政策部長、富永企画政策部副部長、古谷企画調整室指導主幹（教育部副部長）、平岡企画調整室指導主幹（教育総務室担当課長）、志場企画調整室主査（教育総務室総務係長）、鈴木企画調整室再任用主査（教育総務室再任用主査） 櫛田教育部長、片山教育指導監、南部こども・学校サポート室総括指導主事、田原学校教育課長 |
| 審議内容 | ・児童生徒数の偏在の解消に向けた対策の基本的な方針について |

○議事

・議事 児童生徒数の偏在の解消に向けた対策の基本的な方針について

事務局 （資料に基づき説明）

市長 児童生徒数の偏在の解消に向けた対策は、長い期間を設定するよりも第1期・第2期に分けるべきで、児童生徒数の減少に伴いフェーズが変わってくるだろうという話を教育長としていたところ、学校教育審議会から第1期・第2期に分ける内容の答申をいただいた。方針では第2期に統廃合の話が出てくるが、今の時点で統廃合の話が独り歩きするのはおかしな話で、人口がずいぶん減ってきたという認識が市民に広がってはじめて統廃合が身近な話となり、そのあたりでフェーズが変わるだろうと考えている。あと、校区変更の関係では、高層マンションは校区のあり方を検討すべきと考えている。本市と交流のある千葉県習志野市で大規模マンションの建設に伴い校区変更を行ったという事例を紹介しており、参考にしていただけたのではないかと考えている。また、スクールバスの運行について、市としては公共交通の維持も課題であり、直近では普賢寺小学校において生徒と地域住民のバス混乗実証実験を行った事例もある。地域の公共交通にこども達の乗車が定着することで、これから先の公共交通の維持にも繋がっていくため、そういった視点も含めていただければありがたいと考える。

教育長

課題解決に向けた短期的な取り組みとしては、田辺中学校で教育環境の整備を進め、培良中学校で学校選択制度を導入したところである。令和7年4月1日現在において、培良中学校の1年生は100名で、そのうち学校選択制度を利用した生徒が27名、2年生は117名でそのうち昨年度に学校選択制度を利用した生徒が23名、3年生は77名で、3年生の入学時には学校選択制度がなかったが、編入時に学校選択制度を利用した生徒が4名あり、着実に学校選択制度が定着してきている。以前は各学年2クラスという状況もあったが、現在は各学年とも3クラスであり、適正規模に近づいているが、大規模校にはない小規模校の特色を十分活かせるような環境になってきている。学校選択制度は昨年度からの取り組みであり、まだ十分とはいえないところもあるが、学校側も理系教育、英語教育、体験学習等を積極的に取り組む計画を立てており、効果が出てきていると感じる。今後、第1期の10年間で児童生徒数が増加することを考えると、学校選択制度は非常に効果的であると考えている。通学手段が課題となるが、先ほど市長が発言されたようにスクールバスを用意するのか、あるいは公共交通機関の利用なのか、通学手段を検討し、それぞれの学校の特色を出しながら学校選択制度を進めていきたい。ただし、その後の生徒数が減少していく段階では、一定の規模を確保するために統廃合を検討する必要がある。地域から出てくる意見や要望等について、地域と十分なコミュニケーションを図りながら、こどもたちのためにどんな方法が良いのかを地域と一緒に考えていく時期が第2期であると考えている。

教育委員

原案については審議会において長く議論してきたところであり、落ち着くべきところに落ち着いたと思っている。先ほど市長が発言されたように、フェーズが変わる段階でどのようにソフトランディングに持っていくのが重要である。また、スクールバスについては、この頃はコミュニティバスがないと地域が回っていかないといったことがあり、スクールバスよりはコミュニティバスをしっかりと運用していく方が良いのではないかと。スクールバス単独での運用は費用がかかるため、地域全体をコミュニティバスの運用でカバーする等、スクールバスだけに限らない考え方も大変重要である。

教育長

普賢寺小学校のバス混乗実証実験は終了したが、先日、普賢寺小学校周辺地域の住民からバス運行の問い合わせ電話があったところであり、地域住民を中心として小学生も利用するという形で公共交通機関を運用するのも良いと感じる。

教育委員 児童生徒数の偏在は京田辺市だけの問題ではないが、今回の方針で京田辺市にとっての良い方向性ができたのではないかと考えている。学校選択制度に関しては、学校の情報がなければ学校選択まで至らず、地元の学校に行くということになりがちなので、情報発信は非常に大切であると考えている。予算の制約等はあると思うが、特色がある学校だけではなく、その他の学校についても広報誌等で行事や取り組み等を紹介し、保護者やこどもにしっかりとしたイメージを持ってもらうことが重要である。こどもにこの学校を選びたい、この学校の行事に参加したいという考えが浮かぶよう、情報発信をしっかりとお願いしたいと考える。

市長 保護者には自分のこどもが通う学校の情報だけではなく、他の学校の良い取り組み等の情報も伝わってほしいところである。

教育委員 中学校の特色は授業等により想像しやすい面があるが、小学校の魅力を打ち出すのはなかなか難しいと考える。京田辺市には普賢寺小学校というロールモデルがあるが、小学校ならではのものや、中学校との連携等、保護者が受け入れやすい情報発信の仕方でも小学校の魅力を打ち出していけるよう、教育委員会でも検討していければ良いと思う。各小学校の魅力が生まれることで相乗効果が生まれる。また、こどもの安心安全についても前面に打ち出していく必要がある。

教育委員 小・中学校という義務教育の枠で学校を選んでもらうことは学校も初めて、保護者も初めて、地域も初めての取り組みであり、普賢寺小学校や培良中学校が成果を上げているが、学校選択制度を拡大していく際、最長で9年間通学する学校を選ぶということになってくる。一定の学力水準の向上や学習機会の均等という均質性が求められる一方で特異性を出すというところが難しく、バランスが非常に重要で、学校がそれぞれで考えるものではない。保育所、幼稚園、こども園という入口の段階から学校選択制度を周知し、小学校を選んでいく段階では園長会や校長会等が全体のバランスを調整し、各学校で取り組んでいく仕組みとするべきである。培良中学校区の田辺東小学校、草内小学校は中学校に繋がっていくような特色づくりをそれぞれ市や地域と連携しながら進めていく取り組みが必要で、京田辺市全体の保育所、幼稚園、こども園、小学校、中学校が総合的に協働していくための議論を早く進めていく必要がある。

市長 今の委員のご意見については私もそう思っている。早ければ来年度から私立高校の授業料無償化に向けた取り組みが始まるが、これにより私立中学校の受験者が増えるのではないかと考えている。最近の私学は中高

6年間の一貫教育に注力しており、中学校の募集枠を増やす傾向がある。京田辺市内のこどもの教育、子育てについて、教育大綱で定める目標に向かってどう取り組むかという姿勢を打ち出していないと、市立学校と私立学校との綱引きが始まるのではないかという懸念がある。こどもが小学生の早期から私立中学校の受験対策を進めることが果たしてこどもの将来にとって良いことなのかという疑問があり、それに対する公教育の打ち出し方があるのではないかと考えている。

教育長 現在、他市町で小中一貫校の設置が検討されている、あるいは既に設置されているところがあるが、京田辺市では設置要望があるものの、小中一貫校の設置は現実的に難しいと感じる。先に委員から提案のあった、小中一貫校ではなく校区内の小学校、中学校がきっちりと連携した小中一貫校的な取り組みを行っていくやり方も一案であると考えている。また、地域コミュニティの話が出たが、京田辺市の良さは地元愛の強さであり、学校を無理に統廃合していくのではなく、こどもをどのように育てていくのか、地域と一から議論しながら第2期に向けて丁寧に進めていくと、地域の理解は得やすいのではないかと考える。

市長 京田辺市には教育に熱心な方が多く、関わっていただける方も多い。第2期の話についても、危機感をもってどう取り組んでいくのかという話を率直にしなければならないと考えている。

教育委員 テーマは偏在解消であるが、京田辺市の教育には義務教育で学校を選べる魅力があるという印象まで持っていく必要がある。いくつもの学校を選べるという制度があり、こどもが行きたい、行きたがる学校を選べることをメリットとして打ち出せるような取り組みが必要である。こどもや保護者に学校選択制度の良さを感じていただけるよう、京田辺市の公教育の特色として取り組んでいくという姿勢を地域から応援していただき、行政は地域を応援するという方向に持って行くことが重要だと感じる。

市長 偏在解消という言葉はマイナスイメージがあり、児童生徒数が多いところがあるからそんな取り組みをするのかと思われるのではないかと考える。

教育委員 根本的には教育長や各委員が発言されたように、小中一貫の縦のラインが重要であるが、やはり学校の特色や魅力は授業である。学校で楽しい授業が受けられる、タブレットでいろいろなことを教えてもらえるという方向に学校が注力していくことが重要である。今の指導要領の枠では総

合的な学習の時間が学校の特色を出せるような時間で、そこでしっかりと魅力づくりをしていただくことが重要で、先に委員が発言されたように、各学校の特色ある授業等がわかる資料により、各学校の特色や魅力が伝わりやすくなるような形になっていければ良いと考える。京田辺市が地域との連携等をしっかりと授業の中で打ち出していくと、小・中学校の縦のラインが具体的になってくる。授業づくりにより偏在解消の取り組みを進める、そういった意味での特色化は現在の義務教育制度でも可能な仕組みとなっている。

市 長 総合的な学習の時間は小学校の教科教育のなかで国語、算数の次ぐらいか。時間数としてはかなりの割合である。

教育委員 普賢寺小学校では総合的な学習の時間において年間を通じて様々な取り組みをされており、学校への理解が進んでいる。

市 長 京田辺市で古くからある地域では、地域が学校に関わっていこうという意向も強いので、うまく特色が出せるのではないか。また、小学校と中学校の連携については、小学校と中学校それぞれの先生方が一緒になってこどもと向き合っていくという環境づくりを教育委員会で進めていただければありがたいと考える。

市 長 偏在解消の話では、このフレーズをどうポジティブなイメージ、ニュアンスにしていくかということが検討課題である。いただいた答申をどのような形で発信するのかについて、知恵を絞りながら進めていく必要がある。また、私立高校の授業料無償化に向けた取り組みが、公立の小・中学校の教育にどのような影響を及ぼすのかということに対して注意は必要。大阪では私立高校の授業料がほぼ無償化で、こどもは中学校の段階から私立高校に入学するために様々な対策をしている。中学生時に数検、漢検、英検等を高校生のレベルぐらいまで合格する等のことが本当にこどものためなのか、十分見定めていく必要があると考えている。

教育長 私立高校の授業料無償化については、京都府教育委員会が動向を非常に注視している。現在、私立高校や通信制高校が伸びてきており、中学校側では進学や多様な学びができる選択肢が増えてきたことは嬉しいところであるが、先に市長が発言されたように、小学校から中学校に上がる段階で私学を選ぶ可能性がさらに広がるので、しっかりと公立中学校のあり方を考えていかなければならないと考えている。また、話は変わるが教育大綱や教育振興基本計画で教育のソフト面を策定し、現在新しい学校づ

くりプランや学校施設の長寿命化計画等で教育のハード面の対策を進めているが、この偏在解消も一体のものであり、教育委員会としては全体を一体として、ソフト面、ハード面、そして将来を見据え教育の中心が何であるかを考えながら、施策を進めていく必要があると感じている。

市 長 昔のように黒板の情報を書き写すだけの授業ではなくなっており、タブレットの導入や双方向授業により、こどもたちがどこでつまづいているのかがすぐわかる状況となっている。こどもの個々に応じた学びに対してどうアプローチできるかまで学校がわかるようになってきており、ハード面をどう整備していくのが良いのか、教育委員会で十分な議論をお願いしたい。

教育委員 今年度は学校体育館への空調設備の導入やタブレット更新等、多くの予算をつけていただいている。

市 長 更新に伴う旧タブレットをそのまま廃棄するのはもったいないという話をしており、旧タブレットの活用方法の検討を行っている。タブレットは6,000台～7,000台あり、5年で更新するのはもったいないが、データの消去という課題がある。また、こどもまんなかという方針については年配者を置き去りにしているのではなく、今は1人のこどもに対して父母、祖父母等の大人が8人ぐらい関わっていることもあるという視点である。市の事業を市民のみなさんに説明、展開する際にこどもだけでなく、こどもをきっかけとして周りの大人にも伝わるような仕組みになっているという、ポジティブな捉え方をしていただければと考えている。教育や子育てはやはりまちの根幹、中心的な役割として進めていくべきものであり、教育委員のみなさんには様々な形でのご尽力をいただきたいと思っているので、引き続きよろしくをお願いしたい。

市 長 偏在解消という方針名の可否も含め、教育委員会において協議のうえ、方針の検討を進めていただきたい。

～以上 散会～